

果樹病虫害予察調査結果（7 / 10 調査分）  
（三条・加茂・田上地域）

7月10日に実施した予察調査結果についてお知らせいたします。

**（共通）**

- 九州を中心に、梅雨前線による集中豪雨が発生しています。新潟県でも前線の動きによっては短時間に激しく降ることが懸念されます。降雨後の病虫害対策の観点からも、園地の排水状況を再確認しましょう。
- ナシヒメシンクイの誘殺数が多くなっています。第2世代成虫の防除時期は、誘殺盛期直後です。7月3半旬以降に防除を実施しましょう。
- 一部で、ハダニ類の発生が確認されています。草刈り後、樹上にかかる数が増えるので、寄生状況を観察した上で発生初期に防除を実施しましょう。

**（ナシ）**

調査地点ごとに5新梢、100果を調査しました。

- セイヨウナシ褐色斑点病は、新梢先端部を中心に発生が増加傾向にあります。発生が少ないうちに、り病部位を摘み取り園外で処分しましょう。
- 一部で、アブラムシ類やニセナシサビダニの発生が確認されています。発生が多い場合は、被害部位の摘み取りや薬剤散布を実施しましょう。
- 花腐れ細菌病を発見した場合は、切除し園外で処分するとともに、除去時に使用するハサミ等を介しての感染を防止するため、アルコールで消毒しましょう。
- 黒星病の発生は少ないものの、果実肥大後期には果実感染しやすくなることから、り病部位の除去で感染拡大を防ぎましょう。

## (モ モ)

調査地点ごとに5新梢、100果を調査しました。

- 多くの地点でせん孔細菌病り病葉の発生が確認され、果実発病も一部で確認されています。収穫期を迎える品種も多くなるため、飛散(ドリフト)対策を講じるとともに、耕種的防除として防風網の点検や、り病部位の除去を実施しましょう。
- 一部で、灰星病り病果の発生が確認されました。収穫前日数に注意しながらJAの「桃 収穫・管理日程表」を参考に防除を実施するとともに、り病果は速やかに除去しましょう。

## (ブドウ)

調査地点ごとに100葉、100果房を調査しました。

- 一部で、灰色かび病発病葉が確認されました。また、梅雨以降は露地を中心にべと病や褐斑病が発生しやすく、早期落葉の原因となります。今後の発生に注意し、適期防除等を心がけましょう。

◇ 次回調査は7月25日(火)です。

担当 : 中越支所 果樹共済係
TEL : 0258-36-8105
FAX : 0258-34-8020